

\*当リリースは、2月19日にフォルヴィアがフランスで発表した英文リリースの抄訳です  
2024.03.22

### レバレッジ解消とPOWER25目標達成に向け順調に進展した2023年度業績

- 売上高はオーガニックベースで **14%増**、**430bps** のアウトパフォーマンス
- 営業利益率は **100bps** 改善し、売上高の **5.3%**
- ネットキャッシュフローは「**Manage by Cash**」プログラムが追い風となり、売上高の **2.4%**にあたる **6億4,900万ユーロ**と堅調
- 年度末時点の調整後 EBITDA に対する純負債の比率は **2.1倍**、ヘラー（HELLA）統合直後の **2022年6月30日時点の3.1倍**から大幅減

単位：百万ユーロ	2022年度*	2023年度	変動割合
世界の自動車生産台数**	82,344	90,321	+9.7%
売上高 一定の連結範囲と為替レート	<b>24,574</b>	<b>27,248</b>	<b>+10.9%</b> +14.0%
営業利益 売上高に占める割合	<b>1,061</b> 4.3%	<b>1,439</b> 5.3%	<b>+35.7%</b> <b>+100bps</b>
調整後EBITDA 売上高に占める割合	<b>2,907</b> 11.8%	<b>3,328</b> 12.2%	<b>+14.4%</b> <b>+40bps</b>
ネットキャッシュフロー 売上高に占める割合	<b>483</b> 2.0%	<b>649</b> 2.4%	<b>+34.3%</b> <b>+40bps</b>
年度末時点の調整後EBITDAに 対する純負債の比率	<b>2.7倍</b>	<b>2.1倍</b>	<b>-0.6倍</b>
純利益（グループ持分）	<b>(382)</b>	<b>222</b>	n/s

\* 2022年分は、SASが2022年1月1日以降非継続事業となり、ヘラーが2022年2月1日から100%連結されたことを反映し修正されたもの

\*\* 単位は1,000台、出所：2024年2月付のS&Pグローバルモビリティ（旧社名IHSマークイット）のデータ

### ロードマップを上回るヘラーとのシナジー効果

- **2023年度末**のネットベースの累積コストシナジー効果は **1億9,000万ユーロ**
- **2025年度末**のネットベースの累積コストシナジー効果を **3億5,000万ユーロ超**に上方修正

### 勢いづくレバレッジ解消、2023年度のネットベースの債務削減額は約10億ユーロ

- 「**Manage by Cash**」プログラムと、**2022年第2四半期**に開始した第一弾の **10億ユーロ規模**の売却計画の完了が寄与

- 2023年第4四半期に開始した第二弾の10億ユーロ規模の売却計画により解消ペースが加速

#### 2023年度の受注高は選別受注により310億ユーロと好調

- POWER25 目標どおりの利益率、アップフロントコストは削減
- 主要な市場要因に即した極めて堅調な受注高

#### POWER25アンビションに向けて順調に進捗している2024年度ガイダンス

- 2024年度ガイダンス
  - 売上高は275億ユーロ～285億ユーロ
  - 営業利益率は売上高の5.6%～6.4%
  - ネットキャッシュフローは2023年度以上
  - 2024年12月31日時点で調整後 EBITDA に対する純負債の比率は1.9倍以下
- POWER25 アンビションに向けて順調に進捗中（アンビションは2022年11月のキャピタルマーケットデーで発表されたもの）
  - 売上高は約300億ユーロ
  - 営業利益率は売上高の7%超
  - ネットキャッシュフローは売上高の4%
  - 2025年12月31日時点で調整後 EBITDA に対する純負債の比率は1.5倍未満

#### フォルヴィアは本日、欧州におけるグループ事業の競争力と機動性の強化をめざす、5年計画プロジェクト「EU-FORWARD」を発足する意向であることを公表

- 急速に変化する欧州情勢に合わせてグループの製造・研究開発事業を調整する計画
- プロジェクト目標
  - 利益率の大幅な引き上げ、2028年度の EMEA（欧州・中東・アフリカ）の利益率を売上高の7%超に（2023年度は2.5%）
  - グループの地域構成を見直し、2028年度には EMEA の売上高に占める割合を約40%（2023年度は46%）、営業利益に占める割合を約35%（2023年度は22%）とし、中国への依存度を低下させながら、EMEA 地域の成長を継続させる

## フォルヴィア最高経営責任者（CEO）、パトリック・コラーのコメント

「堅調な需要と、サプライチェーンの混乱の段階的な解消を背景に世界の自動車生産台数が増加するなど追い風が吹く一方で、根強いインフレ圧力、高止まりする金利、不利な為替レートという向かい風もあり、2023年は振れ幅の大きな一年となりました。

こうした中でもフォルヴィアは堅調な業績を維持し、優先課題に取り組んできました。主に中国での市場シェア獲得により、市場を430bpsアウトパフォームするなどオーガニックグロスによる売り上げが好調だったことに加え、営業利益率が100bps改善して売上高の5.3%となり、収益性の高い成長を実現しました。ロードマップを上回るヘラー統合のシナジー効果もこうした業績に貢献していることから、2025年までに当初予想より高いシナジー効果が見込まれると確信しています。

私たちは最優先課題に取り組み、ヘラー買収以降レバレッジの解消を進めてきました。また、力強いキャッシュ創出力を示すとともに、2022年中旬に開始した第一弾の10億ユーロ規模の売却計画を完了したことで、この1年間で債務を10億ユーロ（ネットベース）近く削減することができました。

さらに、さまざまな分野で主要なマイルストーンを達成しています。北米シーティング、クラリオン・エレクトロニクス（Clarion Electronics）、ライティング事業は利益率が大幅に改善しました。大手OEMのステランティス（Stellantis）をシンビオ（Symbio）の新たな共同出資者として迎え、タンクと燃料電池の新たな生産部門を立ち上げ、水素事業も加速させました。戦略とイノベーションの柱としているサステイナビリティに関しては、スコープ1および2の目標より1年早く進行しています。サステイナブル素材の開発を専門とする会社、マテリアクト（Materi'Act）の設立は、スコープ3の目標と、2045年までにCO<sub>2</sub>排出量をネットゼロにするという目標の実現を後押しするでしょう。選別受注により受注高は310億ユーロと好調で、Power25の目標どおりに利益率を改善し、アップフロントコストを削減しました。これは業界のメガトレンドをとらえた、フォルヴィアのビジネスの魅力の高さが反映されたものです。

2023年度の堅調な業績達成における、フォルヴィアチームの皆さんのご尽力に感謝します。

2024年も、Power25計画達成に向けてさらなる前進を遂げることでしょう。今後も持続可能で収益性の高い成長に重点を置きながら、「Manage by Cash」プログラムやすでに進行中である第二弾の10億ユーロ規模の売却計画を通じてレバレッジ解消を加速させる予定です。さらに、機敏性を失うことのないよう徹底すると同時に、予想されている中期的な市場の進化に備えて必要な措置を講じていく方針です。

本日フォルヴィアは「EU-FORWARD」プロジェクトを発足する意向であることを公表しました。今後5年間に亘って展開する予定であり、欧州におけるグループ事業の競争力と機動性を強化し、利益率の大幅な引き上げをめざします。このプロジェクト目標の実現を後押しするためにグループ全体でAI採用を加速させ、高い水準のテクノロジーとイノベーションは維持しながら、研究開発の投資およびコスト、ならびにプログラム管理を最適化します。引き続き、目まぐるしく変化する環境でも十分に戦うことのできる強靱なグループ構築に努めていきます。

- 2023年度の連結財務諸表は、2024年2月16日に開催された取締役会において、ミシェル・ド・ローゼンが議長を務める下、承認されました。
- これらの財務諸表は監査済みです。
- 本プレスリリースで用いられているすべての会計用語については、本文書末尾の「本文書中で使用されている用語の定義」で説明しています。
- **IFRS第5号 – 非継続事業**  
2023年2月19日に売却計画が発表された、フォルシアのインテリアビジネスグループの一部であるコックピットモジュール部門、SAS（アセンブリおよびロジスティクスサービス）は非継続事業として表示されています。
- 世界または各地域の自動車生産に関する数値はすべて、2024年2月付のS&Pグローバルモビリティの予測を参照しています。

## 2023年度の主な成果

---

- **2022年第2四半期に開始した第一弾の10億ユーロ規模の売却計画が完了**（2022年度の売却による収入は約3億2,000万ユーロ、2023年度は約7億ユーロ）。これにより**2023年度にネットベースで債務を10億ユーロ近く削減**
- **レバレッジ解消の加速を目指し、第二弾の10億ユーロ規模の売却計画を開始**

フォルヴィアは2023年第3四半期末、2022年第2四半期に開始した**第一弾の10億ユーロ規模の売却計画**を完了しました。

- ✓ 約3億2,000万ユーロは、主にヘラーによる合併事業HBPOの株式売却などにより、2022年度にすでに受け取り済みです。
- ✓ 残りの約7億ユーロは、次の売却で2023年度に受け取ったものです。(i) ステランティスへのシンピオ株式の16.66%売却、(ii) マザーソングループ（Motherson Group）へのコックピットモジュール部門SASの売却、(iii) カミンズ（Cummins）への欧州と米国の商用車両向け排出ガス後処理事業の一部売却。

このように15カ月足らずで売却計画で掲げた目標を達成しました。この計画の下で行われたすべての売却によって、グループは戦略的優先分野に一層注力できるようになりました。売却はいずれも好ましいバリュエーションに基づいて行われました。

フォルヴィアは2023年10月、グループの事業ポートフォリオを一層簡素化させ、POWER25の当初目標を上回るペースでレバレッジ解消を進めるとして、**第二弾の10億ユーロ規模の売却計画**の開始を発表しました。

この第二弾売却計画の1件目がヘラーによる、マーレ（MAHLE）と共同出資したBHTCの株式50%の売却です。これは第二弾の売却計画と共にすでに発表されていたもので、BHTCの企業価値は約6億ユーロと評価され、ヘラーとマーレはそれぞれ約2億ユーロの現金収入を得る見込みです。

- **ヘラー統合によるシナジー効果はロードマップを上回る。ネットベースの累積コストシナジー効果は 2023 年度末時点で 1 億 9,000 万ユーロであり、2025 年度末の予想を 3 億 5,000 万ユーロ超に上方修正（変更前は 3 億ユーロ超）**

2023年度は、ヘラー統合によるシナジー効果の創出ペースが加速し、2023年度末の累計のコストシナジー効果は1億9,000万ユーロと、ロードマップを上回りました。2022年度末時点では、5,100万ユーロでした。

これは、調達、運送、販売費および一般管理費などの主要分野におけるさまざまなプロジェクトを通じて生み出された成果です。2023年7月、ヘラーとフォルヴィアは、一つの組織としての複合的強みを有効活用するため、共同出資者および共同経営者として合併事業のFH Services S.A.S.を設立しました。フォルヴィアが世界各国に有する計15万のビジネスユーザーに最先端のITおよび間接購買ソリューションを提供する世界的プロバイダーをめざします。

シナジー効果プログラム開始以来の順調な進展を受け、フォルヴィアは2025年までのコストシナジー効果目標を3億ユーロ超から3億5,000万ユーロ超に上方修正しました。

商業面のシナジー効果に関しては、2023年、フォルヴィアとヘラーはラスベガスで開催されたCESで初めて共同でブースを出展し、その後も上海モーターショー、ミュンヘンで開催されたIAAモビリティで共同出展しました。2024年1月上旬にラスベガスで開催されたCESでも同様に共同で出展しています。

- **選別受注により受注高は 310 億ユーロと好調、利益率は POWER25 の目標どおりであり、アップフロントは削減**

2023年度、フォルヴィアは310億ユーロの受注高を計上しました。全ビジネスグループの力強い勢いが反映された高水準の数値となりました。

2023 年度に計上された受注分の営業利益率の平均は、POWER25 の目標どおりのものであり、アップフロントコストも当初予想と比較して約 3 億ユーロ削減できる見込みです。

- **持続可能で革新的なソリューションの開発によるグループの事業改革の加速**

2023年、MSCIはフォルヴィアのサステナビリティの格付けを「A」に引き上げており、2024年初めにはCDPからも「A」評価を受けました。サステナリティクス（Sustainalytics）からも11.3（「低リスク」）と評価されています。

排出量ネットゼロへのロードマップに関しては、フォルヴィアは2023年度末時点でスコープ1と2において予定より1年早く進んでおり、当初2024年度末を予定していたCO<sub>2</sub>の40%超削減をすでに達成しています。引き続き2025年度末までにスコープ1と2のカーボンニュートラルを達成し、2030年度末までにスコープ3の排出量を45%削減した後、2045年度末までにすべてのスコープでネットゼロを達成するという目標に取り組

んでいます。

**2023年11月、CO<sub>2</sub>排出量の少ない独自の最先端素材の開発、産業化、マーケティングを専門とする、フォルヴィア傘下のマテリアクトは、フランスのヴィルールバヌに本社と研究開発センターを設立しました。**この研究開発センターは、エンジニア、研究者、データサイエンティストを集め、CO<sub>2</sub>排出量が極めて少ない素材の分野で世界クラスのセンターオブエクセレンス（CoE）となり、欧州を代表する研究拠点となるために設立されました。

**2024年1月、フォルヴィアはラスベガスで開催された2024コンシューマー・エレクトロニクス・ショー（CES）に出展し、サステナブルモビリティを重視したイノベーションを発信しました。**

フォルヴィアの展示品は、業界の技術的進化に対応しながら温室効果ガスの排出を削減するために、スコープ3に取り組むことをめざしたものでした。さらに、フォルヴィアは2024年CESイノベーションアワードの「自動車技術 & 先進モビリティ」部門で4つの賞を受賞しました。

#### ● フォルヴィアの水素戦略における新たなマイルストーン

**2023年7月、ステランティスは、ゼロエミッション水素モビリティのリーディングカンパニーであるシンビオの株式を取得しました。保有率はフォルヴィアおよびミシュラン（Michelin）と同等となっています。**フォルヴィアとミシュランが50：50で共同出資していた合併事業シンビオへの大手OEMステランティスによる資本参加は、シンビオの可能性を高めるだけでなく、世界的な成長を加速させるものであり、シンビオの顧客に恩恵をもたらすものです。

**2023年10月上旬、フォルヴィアはフランスのアレンジョワに、欧州のモビリティアプリケーション向けの水素貯蔵タンクの量産工場を初めて設立しました。**2030年までに年間10万本のタンク生産をめざすもので、2023年から2025年の間に生産コストが5分の1削減される見込みです。アレンジョワで製造された水素貯蔵システムは、すでにステランティス（オペルのヴィヴァーロe、シトロエンのeジャンピー、プジョーのeエキスパート）とHyvia（ルノーのマスターバンH2-Tech）の商用車に搭載されています。

**2023年12月上旬、シンビオはフランスのサン・フォンに同社初のギガファクトリー、SymphonHy（シンフォニー）を落成しました。**欧州最大の統合型の水素燃料電池生産拠点として、2026年までに5万台の燃料電池システムの生産を目指します。シンフォニーはIPCEI（欧州共通利益に適合する重要プロジェクト）プログラムの一環として欧州連合とフランス政府に支援されている10億ユーロ規模の戦略プロジェクト、HyMotiveの一部です。

水素の大型受注に関しては、2023年末に北米で2件の新規契約を締結しました。2025年の生産開始を予定しています。

- 1件目は大手自動車メーカーとの契約で、中型商用トラック向けのタイプ4の水素貯蔵システムを供給します。
- 2件目は大手クリーンエネルギーテクノロジー企業との契約で、大型商用車向けのタイプ4の水素貯蔵システムを供給します。



## 不採算となっていた北米ミシガン州のJITシーティングプログラムの事実上の終了、エレクトロニクスビジネスグループ内のクラリオン・エレクトロニクスの業績立て直し、ライティングビジネスグループの利益率の大幅な改善

以前のリリースですでお伝えしたように、フォルヴィアは2023年9月末にミシガン州のジープグランドワゴニア向けシーティングJIT（ジャストインタイム）事業を終了しました（本プログラムの残り部分はメキシコのモンテレイにあるフォルヴィアのシーティングプラントに移転されています）。2023年度の期首から9カ月間に生じた本プログラムの追加経費は3,000万ユーロであり、2022年度の8,000万ユーロから5,000万ユーロ改善しました。本プログラムの展開に伴い、2024年のグループの北米シーティング事業の利益率はさらに改善するでしょう。

2023年、クラリオン・エレクトロニクスは業績立て直しに成功しました。クラリオン・エレクトロニクスは、ヘラー買収以前はフォルシアのエレクトロニクス事業でしたが、現在はフォルヴィアのエレクトロニクスビジネスグループ内に組み込まれています。2023年上半期、フォルヴィアのエレクトロニクスビジネスグループの約25%を占めるクラリオン・エレクトロニクスは、半導体供給量を維持するための運送費の高騰および地域構成が不利に働いたことが大きく響き、営業損失を計上しました。2023年下半期は、サプライチェーンの段階的な改善と堅調なオーガニックグロースにより、同年上半期の損失を補う以上の大幅な黒字化となりました。

2023年、ライティングビジネスグループは2023年度の営業利益率が売上高の5.1%（2022年度は同3.5%）であり、POWER25目標を上回って回復していることを確認しました。

## 2023年度の重要な数値

- **2023年度のライトビークル生産台数は前年度から9.7%増となり9,000万台に到達**

2023年度の世界の自動車生産は力強い動きをみせ、世界のライトビークル生産台数は前年比で9.7%増加し9,030万台となりました。

市場を支えたのは、世界的な需要の増大と半導体不足の段階的な改善でした。

2023年度のライトビークル生産水準は、2019年度に達成した約8,900万台（コロナ前の水準）を上回りましたが、地域構成は当時とは異なっています。

- **ロシアを除く欧州（グループ売上高の45%）：生産台数は前年比12.7%増の1,670万台、2019年水準の1,920万台からは約13%減**
- **北米（グループ売上高の24%）：生産台数は前年比9.7%増の1,570万台、2019年水準の1,630万台からは4%減**
- **中国（グループ売上高の21%）：生産台数は前年比10.0%増の2,880万台、2019年水準の2,440万台からは18%増**

2023年度の世界の生産台数に占める割合は中国が32%（2019年度は27%）、欧州が20%（2019年度は24%）でした。

- **2023年度のグループの連結売上高と営業利益**

グループ（単位：百万ユーロ）	2022年度*	為替 差損益	オーガニック ロース	連結範囲の 変更による 影響	2023年度	報告ベースの 変動割合
世界の自動車生産台数 （単位：百万台）	82,344				90,321	9.7%
売上高	24,574	-1,272	3,431	515	27,248	10.9%
前年比		-5.2%	14.0%	2.1%		
アウトパフォーマンス（bps）			<b>+430bps</b>			
営業利益	1,061				1,439	35.6%
	4.3%				5.3%	+100bps

\* 2022年分は、SASが2022年1月1日以降非継続事業となり、ヘラーが2022年2月1日から100%連結されたことを反映し修正されたもの

**2023年度の連結売上高は272億4,800万ユーロ：報告ベースで10.9%増加、オーガニックベースで14.0%増加、430bpsのアウトパフォーマンス**



- オーガニックグロースは前年比 14.0%増の 34 億 3,100 万ユーロとなり、同期間の世界の自動車生産台数の伸び 9.4%に対して 430bps の堅調なアウトパフォーマンスとなりました。  
 430bps のうち、250bps は生産台数、80bps はインフレのパススルー、100bps は地域構成が有利に働いたことによるものです。  
 2023 年第 4 四半期の売上高は、2023 年第 3 四半期末にミシガンプログラムの JIT を終了したことで前年同期比約 5,500 万ユーロ減少したほか、米国における UAW のストライキの影響を大きく受けたことで前年同期比約 9,000 万ユーロ減少しました。
- 連結範囲の変更により、前年比 2.1%、5 億 1,500 万ユーロのプラスの影響がありました。内容は以下のとおりです。
  - ✓ ヘラーを連結した月が 1 カ月増えたことによる（2022 年 2 月 1 日から連結）の 6 億 1,700 万ユーロのプラス
  - ✓ CVI 事業のカミズへの売却に伴い、連結範囲から除外された 1 四半期分の（2023 年 9 月 30 日以降連結範囲から除外）1 億 200 万ユーロのマイナス
- 為替は主に米ドル、中国元、トルコリラ、アルゼンチンペソが対ユーロで下落したことにより、前年比 5.2%減、12 億 7,200 万ユーロのマイナス影響となりました。

すべてのビジネスグループが2桁のオーガニックグロースを記録しました。

## 2023年度の連結営業利益は100bps増の14億3,900万ユーロ、売上高の5.3%

前年比純増をもたらした主なプラス要因は以下のとおりです。

- ✓ 販売量／構成による効果がおよそ 3 億 9,000 万ユーロ
- ✓ ヘラー統合関連のコストシナジー効果の加速、前年比で 1 億 3,900 万ユーロのプラス効果（ネットベースの累積シナジー効果は 2022 年度末の 5,100 万ユーロに対し、2023 年度末は 1 億 9,000 万ユーロ）
- ✓ ミシガン州シーティングプログラムの追加経費の前年比減少が、ネットベースで 5,000 万ユーロのプラス寄与（2023 年度期首から 9 カ月間の追加経費は 3,000 万ユーロ、2022 年度は 8,000 万ユーロ）
- ✓ ヘラーを連結した月が 1 カ月増えたことによる 3,800 万ユーロのプラス

一方、マイナス要因は以下のとおりです。

- ✓ 為替のマイナス影響が 1 億 3,800 万ユーロ、ほぼ半分はアルゼンチンペソとトルコリラの切り下げに伴うもの
- ✓ ネットベースのインフレコストは前年比で推定 7,500 万ユーロ
- ✓ 米国での UAW ストライキの影響（主に 2023 年第 4 四半期）が 1,800 万ユーロ

## 2023年度の各ビジネスグループの売上高と利益率

- シーティング（当年度のグループの連結売上高の 31%）：業績は改善したものの、潜在利益率には届かず

シーティング（単位：百万ユーロ）	2022 年度	為替差損益	オーガニック グロース	2023 年度	報告ベースの 変動割合
世界の自動車生産台数 （単位：百万台）	82,344			90,321	9.7%
売上高	7,704	-404	1,251	8,551	11.0%
前年比 アウトパフォーマンス（bps）		-5.2%	16.2%		+650bps
営業利益	197 2.6%			315 3.7%	59.7% +110bps

### 売上高

- 好調なオーガニックベースの売上高、650bps のアウトパフォーマンス
  - ✓ BYD、理想汽車（Li Auto）、米国の大手電気自動車メーカー、BMW の買収を背景に、中国のオーガニックグロースは 30% 近くと好調でした。
  - ✓ 主にドイツの大手 OEM の貢献により欧州のオーガニックグロースは約 14% と堅調でした。

### 営業利益

- 営業利益率は前年比 110bps 増の 3.7%。これは主に北米シーティング事業の売上改善、および中国の好調な売上増に関連する地域構成によるプラスの影響にけん引されたものです。
  - ✓ ミシガン州のプログラムに関連した 5,000 万ユーロの追加経費削減による前年比のプラス寄与を含みます（2023 年度期首から 9 カ月間の追加経費は 3,000 万ユーロ、2022 年度は 8,000 万ユーロ）。このプロジェクトに関連する OEM との契約が合意に達したため、フォルヴィアは 2023 年第 3 四半期末に赤字だったミシガン州プログラムの JIT を終了しています。
  - ✓ 中国での順調な売上増が営業利益率を押し上げたことによる、地域構成のプラスの影響も含みます。
  - ✓ 反対に、JIT 事業におけるインフレという逆風、欧州の構造的な過剰設備が営業利益率を低下させました。

- インテリア（当年度のグループの連結売上高の18%）：欧州事業が利益率の足かせに

インテリア（単位：百万ユーロ）	2022 年度*	為替差損益	オーガニック グロース	2023 年度	報告ベースの 変動割合
世界の自動車生産台数 （単位：百万台）	82,344			90,321	9.7%
売上高 前年比 アウトパフォーマンス (bps)	<b>4,645</b>	-258 -5.6%	536 <b>11.5%</b> <b>+180bps</b>	<b>4,923</b>	<b>6.0%</b>
営業利益	<b>191</b> 4.1%			<b>201</b> 4.1%	<b>5.0%</b> 横ばい

\* SAS（インテリアビジネスグループの一部、2022年1月1日以降非継続事業）に関して修正されたもの

## 売上高

- 堅調なオーガニックベースの売上高、180bpsのアウトパフォーマンス
  - ✓ 主にフォード、JLR、RNMにけん引され欧州のオーガニックグロースは22%でした。
  - ✓ 主に長安汽車（Chang'an）と理想汽車にけん引され欧州のオーガニックグロースは20%でした。

## 営業利益

- 営業利益率は前年から横ばいの4.1%。主な内容は以下のとおり。
  - ✓ 販売量／構成の変化がプラスの影響をもたらしました。
  - ✓ また、(i) インフレのパススルーと為替による目減り、(ii) 同時に生産を開始する品目の多さと欧州の構造的な過剰設備、(iii) 持続可能な素材を扱う新設部門、マテリアクトへの出資がマイナスの影響をもたらしました。

- **クリーンモビリティ（当年度のグループの連結売上高の 18%）：好調な成果とゼロエミッションへの投資**

クリーンモビリティ (単位：百万ユーロ)	2022 年度	為替差損益	オーガニック グロス	連結範囲の 変更による影響	2023 年度	報告ベース の変動割合
世界の自動車生産台数 (単位：百万台)	82,344				90,321	9.7%
売上高 前年比 アウトパフォーマンス (bps)	4,736	-342 -7.2%	540 11.4%	-102 -2.1%	4,832	2.0%
営業利益	336 7.1%		+170bps		384 7.9%	14.1% +80bps

## 売上高

- **オーガニックベースの売上高は、170bps のアウトパフォーマンス**
  - ✓ EMEA、南北アメリカ、アジアの主要 3 地域すべてで 2 桁のオーガニックグロスとなりました。
  - ✓ VW、ステランティス、フォードにけん引されオーガニックグロス是好調でした。

## 営業利益

- **営業利益率は前年比 80bps 増の 7.9%。利益率改善の背景は以下のとおり**
  - ✓ 販売量／構成の変化がプラスの影響をもたらしました。
  - ✓ まだ黒字化していないゼロエミッション関連の販売の進展、インフレのパススルーによる目減りがマイナスの影響をもたらしました。
  - ✓ ゼロエミッション事業を除いた営業利益率は、2022 年度の 7.8% に対し 2023 年度は 9.0% となりました。

- **エレクトロニクス（当年度のグループの連結売上高の 15%）：堅調なアウトパフォーマンスと営業利益率の向上**

エレクトロニクス (単位：百万ユーロ)	2022 年度	為替差損益	オーガニック グロス	連結範囲の 変更による影響	2023 年度	報告ベース の変動割合
世界の自動車生産台数 (単位：百万台)	82,344				90,321	9.7%
売上高	3,522	-154	523	247	4,138	17.5%
前年比		-4.4%	14.8%	7.0%		
アウトパフォーマンス (bps)			+510bps			
営業利益	141				219	55.8%
	4.0%				5.3%	+130bps

## 売上高

- **好調なオーガニックベースの売上高、510bps のアウトパフォーマンス**
  - ✓ グループのエレクトロニクス事業全体で、2 桁のオーガニックグロスとなりました。
  - ✓ ヘラーのエレクトロニクス事業（フォルヴィアのエレクトロニクス事業全体の約 4 分の 3）は、自動運転に加え、エネルギー管理、高圧バッテリー管理システム、変圧器、レーダーセンサー、ボディエレクトロニクスなどのエネルギー管理製品への高い需要に後押しされました。

## 営業利益

- **営業利益率は前年比 150bps 増の 5.3%。次の複合的な影響を反映**
  - ✓ ヘラーのエレクトロニクス事業の営業利益率は改善しました。これは、(i) コスト管理の成功とインフレコスト回収の改善、(ii) 売上げ増加と進行中のプロジェクトへの準備を目的とした研究開発費の増大の影響が相殺されたものです。
  - ✓ 2022 年度には赤字だったクラリオン・エレクトロニクスは、2023 年度の業績回復により黒字転換しました（2023 年上半期は引き続き赤字だったものの、2023 年下半期に力強く回復）。

- ライティング（当年度のグループの連結売上高の 14%）：POWER25 アンビションを上回る進捗

ライティング（単位：百万ユーロ）	2022 年度	為替差損益	オーガニック グロス	連結範囲の 変更による影響	2023 年度	報告ベース の変動割合
世界の自動車生産台数 （単位：百万台）	82,344				90,321	9.7%
売上高	<b>3,074</b>	-78	468	281	<b>3,746</b>	<b>21.9%</b>
前年比 アウトパフォーマンス（bps）		-2.5%	<b>15.2%</b>	9.2%		
			<b>+550bps</b>			
営業利益	<b>107</b>				<b>193</b>	<b>80.9%</b>
	3.5%				5.1%	+160bps

## 売上高

- 好調なオーガニックベースの売上高、550bps のアウトパフォーマンス
  - ✓ オーガニックグロスには、市場のリーダーとしての地位、有利な顧客構成、電気自動車メーカーからの高度なライティングソリューションへの強い需要が反映されています。

## 営業利益

- 営業利益率は前年比 160bps 増の 5.1%と力強く改善、業績改善を確認
  - ✓ 事業展開の改善に伴う営業レバレッジがプラスに作用しました。
  - ✓ シナジー効果。



- ライフサイクルソリューション（当年度のグループの連結売上高の4％）：高い利益率を伴う好調事業

ライフサイクルソリューション （単位：百万ユーロ）	2022 年度	為替差損益	オーガニック グロス	連結範囲の 変更による影響	2023 年度	報告ベース の変動割合
世界の自動車生産台数 （単位：百万台）	82,344				90,321	9.7%
売上高	<b>893</b>	-37	114	88	<b>1,058</b>	<b>18.5%</b>
前年比		-4.2%	<b>12.8%</b>	10.0%		
アウトパフォーマンス（bps）			<b>+310bps</b>			
営業利益	<b>89</b>				<b>128</b>	<b>44.2%</b>
	9.9%				12.1%	+220bps

## 売上高

- 好調なオーガニックベースの売上高、310bpsのアウトパフォーマンス
  - ✓ スペアパーツ事業は世界中のさまざまな市場で高い伸びをみせました。
  - ✓ 新たなワークショップ製品のさらなる増産が行われました（ディーゼル車の排出ガスに含まれるすす粒子の検出用）。
  - ✓ 商用車事業は、農業機械、建設機械、トラック、バスなどのメーカーとの堅調な取引により順調でした。

## 営業利益

- 営業利益率は前年比220bps増の12.1%
  - ✓ 販売量の増加および構成内容のプラス効果により売上総利益率は増加しました。
  - ✓ コスト削減が一層進み、全体的に良好な業績となりました。

## 2023年度の各地域の売上高と利益率

	EMEA	南北アメリカ	アジア	合計
<b>2023年連結売上高に占める割合</b>	<b>46%</b>	<b>27%</b>	<b>27%</b>	<b>100%</b>
地域の自動車生産台数前年比	11.5%	8.6%	9.4%	9.7%
<b>2022年度*売上高</b> (単位：百万ユーロ)	<b>11,050</b>	<b>6,823</b>	<b>6,701</b>	<b>24,574</b>
為替差損益	-2.5%	-6.3%	-8.5%	-5.2%
前年比 (オーガニック)	<b>14.0%</b>	<b>10.9%</b>	<b>17.0%</b>	<b>14.0%</b>
アウトパフォーマンス	+250bps	+230bps	+760bps	+430bps
連結範囲の変更による影響	3.0%	1.0%	1.8%	2.1%
<b>2023年度売上高</b> (単位：百万ユーロ)	<b>12,651</b>	<b>7,207</b>	<b>7,390</b>	<b>27,248</b>
前年比 (報告)	14.5%	5.6%	10.3%	10.9%
<b>2022年度*営業利益</b> (単位：百万ユーロ)	<b>175</b>	<b>176</b>	<b>710</b>	<b>1,061</b>
売上高に占める割合	1.6%	2.6%	10.6%	4.3%
<b>2023年度営業利益</b> (単位：百万ユーロ)	<b>316</b>	<b>308</b>	<b>815</b>	<b>1,439</b>
売上高に占める割合	2.5%	4.3%	11.0%	5.3%
前年比変動	+90bps	+170bps	+40bps	+100bps

\* 2022年分は、SASが2022年1月1日以降非継続事業となり、ヘラーが2022年2月1日から100%連結されたことを反映し修正されたもの

## 売上高

- 3つの主要地域すべてで2桁のオーガニックグロス、中でもアジアのアウトパフォーマンスが突出
  - ✓ EMEAのオーガニックグロスは14.0%であり、シーティングとインテリアの堅調な業績がけん引しました。
  - ✓ 南北アメリカのオーガニックグロスは10.9%であり、エレクトロニクスとライティングの堅調な業績がけん引しました。2023年第4四半期の売上高は、ミシガンプログラムのJIT終了による約5,500万ユーロ、UAWのストライキによる約9,000万ユーロの影響を受けています。
  - ✓ アジアのオーガニックグロスは、シーティングとエレクトロニクスに支えられ17.0%となり、760bpsのアウトパフォーマンスでした。
- 中国の2023年度の売上高は58億5,000万ユーロ、オーガニックグロスは17.7%、中国および国際的OEMの両方が寄与

- ✓ 中国の OEM の売上高は中国全体の売上高の 45% を占めており、主に BYD および理想汽車の堅調な伸びがけん引役となりました。
- ✓ 残る 55% は国際的 OEM の売上高であり、主に米国電気自動車メーカー、ドイツの自動車メーカー（VW、ダイムラー（Daimler）、BMW）、GM にけん引されました。

## 営業利益

- **すべての地域で営業利益率が改善**
  - ✓ インフレによる目減りにもかかわらず、EMEA の営業利益率は 2022 年度の 1.6% から 2023 年度は 2.5% と復調の兆しが出ています。しかし依然として EMEA の目標水準にはほど遠い状態です。エレクトロニクスとライティングの業績改善が営業利益率の改善ペースを支えましたが、シーティングとインテリアが足かせとなりました。
  - ✓ 南北アメリカの営業利益率も 2022 年度の 2.6% から 2023 年度は 4.3% へ上昇しました。インフレや UAW のストライキという逆風にもかかわらず、主に米国事業の利益率の改善、ハイランドパークのシーティングプログラムに関連する追加コストの削減にけん引されました。
  - ✓ アジアの営業利益率は、2022 年度の 10.6% から 2023 年度は 11.0% に改善しました。中国における好調な 2 桁の営業利益率が浮き彫りになっています。

## 中国の内外における中国 OEM に関するフォルヴィアの今後の事業展開について

- **2023 年、フォルヴィアと BYD は、タイに新たなシート組立工場を建設しパートナーシップを強化することを発表**
  - ✓ フォルヴィアと BYD は、タイのラヨン県において新たな最先端のシート組立工場の建設を開始します。この工場ではシート一式を生産する予定です。
  - ✓ 過去 18 カ月以内に設立された 4 工場を含む、中国内の最新鋭の 7 工場を通じてこれまで構築してきた BYD とのパートナーシップを強化するものです。
- **同じく 2023 年、フォルヴィアと奇瑞汽車（CHERY）はスマートコックピットの共同開発を決定**
  - ✓ フォルヴィアと奇瑞汽車は、フォルヴィアの製品と技術を統合し、スマートコックピットのソフトウェアとハードウェアプラットフォームを共同開発します。これを奇瑞汽車の車両に組み込み、車内および車外における体系的かつ統合的でインテリジェントなまったく新しいユーザー体験を生み出す予定です。
  - ✓ 両社は「デュアルカーボン」の ESG 目標を設定し、環境に配慮した持続可能な開発を共同で促進します。

## 2023年度連結損益計算書

単位：百万ユーロ	2022 年度*	2023 年度	変動割合
売上高	24,574	27,248	+10.9%
オーガニックグロス			+14.0%
営業利益 (取得した無形資産償却費反映前)	1,061	1,439	+35.7%
企業結合で取得した無形資産償却費	(190)	(193)	
営業利益 (取得した無形資産償却費反映後)	871	1246	+43.1%
構造改革費用	(349)	(171)	
その他の経常外営業利益・費用	(93)	(11)	
純支払利息およびその他の金融収益・費用	(495)	(459)	
完全連結会社の税引前利益	(67)	606	
法人所得税	(177)	(232)	
完全連結会社の純利益	(244)	373	
関連会社の純利益	11	(2)	
継続事業の純利益	(233)	371	
非継続事業の純利益	(18)	(5)	
少数株主利益調整前連結純利益	(250)	366	
少数株主利益	(131)	(143)	
<b>連結純利益 (グループ持分)</b>	<b>(382)</b>	<b>222</b>	

\* 2022 年分は、SAS が 2022 年 1 月 1 日以降非継続事業となり、ヘラーが 2 月 1 日から 100% 連結されたことを反映し修正されたもの

上記のビジネスグループ別および地域別の説明で取り上げたように、営業利益（取得した無形資産償却費反映前）は、2022年度の10億6,100万ユーロから2023年度は35.7%増の14億3,900万ユーロとなり、売上高に占める割合は2022年度の4.3%から2023年度は100bps増の5.3%となりました。

- **企業結合で取得した無形資産償却費**：2022年2月以降のヘラー統合に伴う1カ月分の償却費の増加を含み、1億9,300万ユーロの純損失となりました。2022年度は1億9,000万ユーロの純損失でした。
- **構造改革費用**：1億7,100万ユーロの純損失となりました。2022年度は1億4,400万ユーロの資産償却（うち、1億400万ユーロはロシア関連）を含み、3億4,900万の純損失でした。
- **その他の経常外営業利益・費用**：1,100万ユーロの支出となりました。2022年度は (i) ヘラー買収に関連する経常外費用の4,300万ユーロ、(ii) ロシアでの事業に関連する経常外費用の2,700万ユーロを含み、9,300万ユーロの支出でした。

- **金融収支**：2022年度の4億9,500万ユーロの純損失に対し、4億5,900万ユーロの純損失となりました。これには以下が含まれています。
  - ✓ 2023年度の財務費用5億8,600万ユーロ（2022年度は3億7,700万ユーロ）。主に2023年のヘラー買収資金の借り換えの完了と金利上昇が反映されたものです。
  - ✓ 2023年度のハイパーインフレの損失の3,200万ユーロ（2022年度は3,000万ユーロの損失）。
  - ✓ 為替関連の損失の4,400万ユーロ（2022年度は3,400万ユーロの損失）。
  - ✓ その他、1億5,800万ユーロの事業売却益を含み、2023年度に計上された2億300万ユーロの純利益（2022年度は、ヘラー買収の関連費用の3,400万ユーロの損失を含み、5,400万ユーロの純損失）。

**完全連結会社の税引前利益は、2022年度の6,700万ユーロの営業損失に対し、6億600万ユーロの営業利益となりました。**

- 2億3,200万ユーロの法人所得税の純損失（2022年度は1億7,700万ユーロの純損失）控除後の完全連結会社の純利益は3億7,300万ユーロでした（2022年度は2億4,400万ユーロの純損失）。

**さらに以下を控除し、**

- 関連会社の純利益持分：2022年度の1,100万ユーロの利益に対し、2023年度は200万ユーロの損失
- 非継続事業の影響：2022年度の1,800万ユーロの損失に対し、2023年度は500万ユーロの損失
- 少数株主利益：2022年度の1億3,100万ユーロに対し、2023年度は1億4,300万ユーロ

**最終的に2023年度の連結純利益（グループ持分）は、2022年度の3億8,200万ユーロの損失から一転し、2億2,200万ユーロの利益となりました。**

## 2023年度連結キャッシュフロー計算書

単位：百万ユーロ	2022 年度*	2023 年度	変動割合
<b>営業利益</b>	<b>1,061</b>	<b>1,439</b>	<b>+35.7%</b>
減価償却費および償却費	1,847	1,889	
－ 研究開発無形資産償却費	685	712	
－ その他の減価償却費および償却費	1,162	1,177	
<b>調整後 EBITDA</b>	<b>2,907</b>	<b>3,328</b>	<b>+14.5%</b>
<b>売上高に占める割合</b>	<b>11.8%</b>	<b>12.2%</b>	<b>+40bps</b>
設備投資	(1,137)	(1,137)	
研究開発費	(954)	(1,046)	
運転資本要件の変動（ファクタリングを除く）	405	659	
ファクタリングの変動	183	111	
構造改革費用	(182)	(170)	
金融費用	(362)	(529)	
税金	(362)	(515)	
その他（営業関連）	(15)	(51)	
<b>ネットキャッシュフロー</b>	<b>483</b>	<b>649</b>	<b>+34.3%</b>
<b>売上高に占める割合</b>	<b>2.0%</b>	<b>2.4%</b>	<b>+40bps</b>
配当金の支払額（少数株主を含む）	(55)	(133)	
金融投資およびその他（純額）**	(4,511)	567	
IFRS 第 16 号の影響	(310)	(131)	
<b>純負債の変動</b>	<b>(4,392)</b>	<b>952</b>	
当期首における純負債	(3,467)	(7,939)	
2022 年 12 月 31 日時点における、IFRS 第 5 号の修正			
再表示による債務への影響	(80)		
公表された当期末における純負債	(7,939)	(6,987)	
<b>調整後 EBITDA に対する純負債の比率</b>	<b>2.7 倍</b>	<b>2.1 倍</b>	

\* 2022年分は、SASが2022年1月1日以降非継続事業となり、ヘラーが2月1日から100%連結されたことを反映し修正されたもの

\*\* 非継続事業の影響として2022年度の1,300万ユーロのマイナス、および2023年の1月1日から、SASのコックピットモジュールの売却が完了した7月31日までの1億800万ユーロのマイナスを含む

**調整後EBITDAは14.5%増の33億2,800万ユーロで売上高の12.2%でした（2022年度は29億700万ユーロで売上高の11.8%）。**

- 設備投資は 11 億 3,700 万ユーロと横ばいでしたが、売上高に占める割合は 4.2%であり 2022 年度の 4.6%から減少しました。
- 研究開発費は 10 億 4,600 万ユーロに増加しましたが（2022 年度は 9 億 5,400 万ユーロ）、売上高に占める割合は 2022 年度の 3.9%から 3.8%に減少しました。



- 運転資本要件の変動は**6億5,900万ユーロ**増加しました（2022年度は4億500万ユーロの増加）。厳格な在庫管理、顧客からの資金回収、決済条件におけるシナジー効果を含む、「Manage by Cash」プログラムの効率的な展開が反映されたものです。
- ファクタリングの変動は**1億1,100万ユーロ**増加しました（2022年度はファクタリングプログラムを拡大しヘラーを含めたため、1億8,300万ユーロの増加）。これは主にSASの未実行のファクタリングをグループの他部門に再配分したことが反映されたものです。2023年度末時点のファクタリングは計12億9,200万ユーロであり、利用限度額である約13億ユーロを超えていません。
- 構造改革の支出は**1億7,000万ユーロ**（2022年度は1億8,200万ユーロ）、主にヘラー買収に関連する純負債が増加したことで**金融費用の支出は5億2,900万ユーロ**（2022年度は3億6,200万ユーロ）でした。**税金の支出は**、ヘラーによるHBPOの株式売却に関連してヘラーから受け取った特別配当に係わる6,900万ユーロの源泉徴収税を含み、**5億1,500万ユーロ**（2022年度は3億6,200万ユーロ）でした。当該源泉徴収税は2024年度に還付予定です。

**ネットキャッシュフローは34.3%増加し、6億4,900万ユーロで売上高の2.4%でした（2022年度は4億8,300万ユーロ）。**

- 配当金の支払額（少数株主を含む）は1億3,300万ユーロ（2022年度は5,500万ユーロ）であり、これにはヘラーの少数株主に支払われた特別配当も含まれています。
- 金融投資およびその他の純額は、以下を反映し、5億6,700万ユーロの収入となりました。
  - 第一弾の10億ユーロ規模の売却計画完了に伴う7億ユーロ超の現金収入
  - SASのファクタリングプログラム終了に関連する1億800万ユーロのマイナス
  - 小規模買収への限定的な投資
- IFRS第16号のマイナスの影響は1億3,100万ユーロ（2022年度は3億1,000万ユーロ）であり、新たな大型プロジェクトや買収（主にSAS）が減少したことで前年より低下しています。

**その結果、2023年度末の純負債は69億8,700万ユーロとなり、2022年度末の79億3,900万ユーロから10億ユーロ近くの削減となりました。**

**2023年度末の調整後EBITDAに対する純負債の比率は2.1倍と、前年度の2.7倍から大幅に低下しており、18カ月前、ヘラー買収の影響を受けた直後の2022年6月30日に記録した3.1倍を100bps下回っています。**

**純負債の削減と、調整後EBITDAに対する純負債の比率の改善は、ヘラー買収以降、フォルヴィアが行ってきた速やかなレバレッジ解消に向けた取り組みが予定どおり確実に進展していることの表れです。**

## 2023年12月31日時点の利用可能な流動性は62億ユーロ

---

2023年12月31日時点のグループの流動性は62億ユーロであり、内訳は利用できる手元資金が43億ユーロ、フォルヴィアの未実行のシニアクレジットファシリティが15億ユーロ、ヘラーの未実行のシニアクレジットファシリティが4億5,000万ユーロです。

フォルヴィアの2023年度の積極的な債務管理措置

- 15億ユーロのシニアクレジットファシリティのほぼすべての返済期限を、2027年5月まで1年間延長します（最長2028年5月までの延長オプション付き）。
- 2026年6月に期限が到来する5億ユーロの融資枠の借り換えを行います（1年ずつ2回の延長が可能）。
- 2025年6月期限の1億5,000万ユーロのタームローンの借り換えを行います。
- 2026年に償還される7.25%の9億5,000万ユーロのサステナビリティ・リンク・ボンドのうち1億5,000万ユーロの買戻しを実施します。
- 発行額192億円（約1億2,000万ユーロ）で、2.25年、3.25年、5年の3つのトランシェで組成されるサムライ債を発行します。

2023年の8月から11月にかけて3つの格付機関すべてが、フォルヴィアの格付け見通しをネガティブからステータブル（安定的）に引き上げました。

## 欧州におけるグループ事業の競争力と機動性の強化を目指す、5年計画プロジェクト「EU-FORWARD」を発足

---

欧州の自動車市場は今後数年間も販売量が大きく動くことはなく、2019年水準を大きく下回ったままでしょう。しかしグループにとって最大の市場であることに変わりはなく、EMEAは2023年度の売上高の46%を占めています（営業利益では22%どまり）。

2019年から2023年の変化

- ライトビークル生産台数は、欧州は2,120万台（ロシアを除くと1,920万台）から16%減少して1,790万台（ロシアを除くと1,670万台）となった一方、アジアは4,620万台（うち中国は2,440万台）から12%増加し5,160万台（うち中国は2,880万台）となりました。
- その結果、世界の自動車生産台数に占める欧州の割合は2019年の24%から2023年は20%に低下したのに対し、アジアでは52%から5ポイント上昇し57%となりました（27%から32%へ5ポイント上昇した中国を含む）。

さらに最新の自動車生産量予想によると、欧州は2023年から2030年にかけてほぼ成長がない一方、欧州以外の国・地域は同期間に約9%成長するとされています。

2019年から2023年のその他の変化

- フォルヴィアの売上高に占めるEMEAの割合は2019年の50%（ヘラーの買収前）から2023年は46%となりました。
- フォルヴィアのEMEAにおける営業利益率は2019年の6.6%（ヘラーの買収前、コロナ前・インフレ高進前の環境下）から2023年は2.5%（ヘラー買収後、コロナ後・インフレ高進環境下）となりました。

こうした展開により、フォルヴィアに、適切な対策（構造的な過剰設備への対応を含む）を講じて欧州事業の競争力と機動性を強化し、利益率の大幅な引き上げを目指す必要性が生まれました。この対策により、EMEAの成長を継続させながら、グループの営業利益に対する各地域の貢献度合いを調整し、中国への依存度を下げることがめざします。

**本日、フォルヴィアは「EU-FORWARD」と称するプロジェクトを発足する意向であることを公表し、フォルヴィアの欧州委員会事務局に報告しました。**

「EU-FORWARD」プロジェクトの目標

- 欧州で予定されているICE車販売禁止など環境は刻々と変化し、自動車業界全体が進化する規制を踏まえて構造やコストを変化するよう迫られていることから、情勢に合わせてグループ事業を調整します。
- アジアからの新たな顧客の参入など、変わっていく顧客構成に備えます。
- フォルヴィアの欧州地域の利益率を改善し、グループ業績への寄与度合いにおける地域構成を見直します。

本プロジェクトはグループの欧州事業全体で展開し、2024年から2028年の5年間で実施されます。

実施期間中は、欧州地域の製造および研究開発事業を新たな欧州の環境に合わせて調整することに専念する予定であり、生成AI導入のメリットを活用し、構造的な過剰設備の課題にも対応します。

本プロジェクトは、5年間で最大10,000人の雇用（2023年度末時点で約75,500人を雇用）に影響を及ぼす可能性があり、付加的なリストラクチャリング費用が必要になります。

- P&Lの観点からは、2024年～2028年の欧州のリストラクチャリング費用は約50%上乗せとなり約10億ユーロになるでしょう。費用は2024年～2025年と2026年～2028年で概ね等分します。
- キャッシュフローの観点からは、2024年～2028年の欧州のリストラクチャリング関連支出は約50%増加して約8億ユーロとなるでしょう。同様に2024年～2025年と2026年～2028年で概ね等分します。

2028年には年間ベースで約5億ユーロの削減が見込まれています。

グループレベル

- 全体のP&Lでは、リストラクチャリング費用は12億ユーロ近くとなるでしょう。費用は2024年と2026年～2028年で概ね等分します。
- グループのキャッシュフローに反映されるリストラクチャリング費用は10億ユーロ近くとなるでしょう。同様に2024年と2026年～2028年で概ね等分します。

2028年までの期間における雇用への影響を極力抑えるため、フォルヴィアは自然減のほか、欧州での迅速かつ大幅な採用人数削減をめざしており、非正規雇用の採用水準を調整し、外部の研究開発人材の活用を大きく減らします。

本プロジェクトの実施により、フォルヴィアはEMEA事業の持続的な競争力を大幅に強化し、2028年までに以下をめざします。

- EMEAの利益率を大幅に引き上げ、売上高の7%超を実現します（2023年度は2.5%）。
- グループの地域構成を見直し、2028年にはEMEAの売上高に占める割合を約40%（2023年度は46%）、営業利益に占める割合を約35%（2023年度は22%）とします。

この目標実現を後押しするために「AI／生成AIトランスフォーメーション」と称するグローバルイニシアチブを展開し、高い水準のテクノロジーとイノベーションは維持しながら、研究開発の投資およびコスト、ならびにプログラム管理を最適化します。

フォルヴィアは、AIと生成AIが持つ大きな可能性を活用し、低コスト化と高効率化を図りながらイノベーションを加速させます。

以下のような措置を講じます。

- 各ビジネスグループに専任のAIチームを置き、集権的なグループプラットフォームを設置します。
- ベストインクラスのデータ管理とIT環境を確保し、AIソリューションを実現します。

グループ全体で、研究開発だけでなくプログラム管理用などを含め250以上のもっとも有望なAIユースケースを推進して優先順位を見極め、高い利益をもたらすユースケースを大々的に推し進めます。

本プロジェクトは、研究開発および中核チームの効率を最大50%改善するというアンビションを掲げています。

## 1株あたり0.50ユーロの配当金提案

---

2024年2月16日に開催された直近の取締役会で、2024年5月30日にフランス・ナンテルで開催予定の次回定時株主総会において、1株につき0.50ユーロの現金配当を実施する提案を行うことが決議されました。

この配当金は、

- 2023年度にレバレッジ解消が大幅に加速したことを踏まえ、2024年度からの復配をめざしたPOWER25計画の方針に従ったものです。
- 持続的な利益成長をもたらし、今後はキャッシュフローを改善できるというグループの自信が反映されています。

この提案額（規定の配当政策には届いていません）は、2年間の配当支払中止を経て株主に報いたいというグループの思いと、レバレッジ解消を加速させ、変革をもたらすプロジェクトに資金を注入してグループの競争力のさらなる強化をめざしたいという思いの両方を考慮したものです。

## 2024年度ガイダンス

---

ガイダンスの前提条件

- 2024年の世界の自動車生産台数は2023年からほぼ横ばい。これは、2023年の9,030万台に対し2024年のライトビークル生産台数を約9,000万台（0.4%減）と見込む、2024年2月付のS&Pの最新の市場予測を踏まえています。
- 2024年の平均為替レートは1.10米ドル／ユーロ、7.50中国元／ユーロ

本ガイダンスは、同年度中に生産や小売販売に重大な影響を及ぼす大きな混乱がどの自動車市場にも発生しないと仮定しています。

また、以下を考慮しています。

- 連結範囲の変更に伴う売上高への約5,000万ユーロの限定的なマイナス影響。これは、CVI事業のカミンズへの売却（2023年第4四半期以降連結範囲から除外）による3億ユーロの純マイナスは、ヘラーの中国のライティング合併事業が2024年1月1日から連結されることに伴う約2億5,000万ユーロのプラス分に概ね相殺されるとの見通しを踏まえています。
- 進行中の第二弾の10億ユーロ売却計画の下で実施される1件目の売却による影響。これはヘラーによるBHTCの株式50%の売却であり、約2億ユーロの現金収入をもたらす見込みです。

**2024年度ガイダンスは、POWER25アンビション達成への順調な軌道を示しています。**

- **売上高は 275 億ユーロ～285 億ユーロ**
- **営業利益率は売上高の 5.6%～6.4%**
- **ネットキャッシュフローは 2023 年度以上**
- **2024 年 12 月 31 日時点で調整後 EBITDA に対する純負債の比率は 1.9 倍以下**

## POWER25アンビションに向け順調に進捗中

---

グループは、2022年11月のキャピタルマーケットデーで発表した2025年度の目標をそのまま継続しています。

- **売上高は約 300 億ユーロ**
- **営業利益率は売上高の 7% 超**
- **ネットキャッシュフローは売上高の 4%**
- **2025 年 12 月 31 日時点で調整後 EBITDA に対する純負債の比率は 1.5 倍未満**

この目標は、2025年度の平均為替レートが1.05米ドル／ユーロ、7.00中国元／ユーロであり、2025年度中に生産や小売販売に重大な影響を及ぼす大きな混乱がどの自動車市場にも発生しないとの仮定に基づいたものです。

また、この目標は2023年10月に発表された第二弾の10億ユーロ規模の売却計画による影響は考慮していません。

## 財務カレンダー

- **2024年3月21日** フランス・パリでサステナビリティデイ
- **2024年4月18日** 2024年度第1四半期売上高（市場取引開始時間前）
- **2024年5月30日** フランス・ナンテルにて定時株主総会
- **2024年7月24日** 2024年度上半期業績（市場取引開始時間前）
- **2024年10月21日** 2024年度第3四半期売上高（市場取引開始時間前）



## フォルヴィアについて: “人々にとって大切なモビリティ・エクスペリエンスを実現する技術を先駆的に開発する”

世界第7位の自動車技術サプライヤーであるフォルヴィアは、フォルヴィアとヘラーの技術および生産上の強みを補完し合うことで構成されています。世界40カ国以上に260以上の工場と78のR&Dセンターを持ち、15,000人以上のエンジニアを含む15万3千人の従業員を擁するフォルヴィアは、現在および将来の自動車産業の課題に対して独自の包括的なアプローチを提供しています。6つのビジネスグループと13,400件以上の特許を有する強力なIPポートフォリオで構成され、世界のカーメーカー各社からイノベーションおよび統合のパートナーとして選ばれることに注力しています。2023年度のグループ連結売上高は270億ユーロでした。フォルヴィアは、ユーロネクスト・パリ市場にFRVIAのニーモニックコードで上場しており、CAC Next 20、CAC SBT 1.5°インデックスの構成銘柄に名を連ねています。フォルヴィアは、モビリティの変革を予見し、実現することを約束するチェンジメーカーとなることをめざしています。[www.forvia.com](http://www.forvia.com)

## 免責事項

本文書には、フォルヴィアの将来の見通しに関する一定の記述が含まれています。このような将来の見通しに関する記述は、傾向や目標を示すものであり、将来のフォルヴィアの業績やその他の業績指標に関する予測として解釈されるものではありません。「推定する」、「見込む」、「期待する」、「見積もる」、「計画する」、「意図する」、「目的」、「信ずる」、「予測する」、「ガイダンスする」、「予見する」、「恐らく」、「かもしれない」、「だろう」、「目標」、「目標値」、「ひょっとして」、「するだろう」、「するつもりである」、「はずである」、「予想する」、「続ける」、「確信する」、「自信」などの将来の見通しに関する単語、こうした単語の否定形や複数形、そして他の同等の用語で、こうした将来の見通しに関する記述を特定できる場合もあります。本文書におけるこうした記述には、財務予測、推定、およびその基礎となる仮定が含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、こうした仮定には、現在および将来の事業戦略（フォルヴィアグループへのヘラーの順調な統合を含む）に関する仮定、フォルシアの事業運営に関する予想および記述、そしてフォルヴィアの事業の将来の運営、方向性および成功に関するものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。フォルヴィアは、本文書の公開時点において、これらの将来の見通しに関する記述が合理的な仮定に基づいているものと考えますが、こうした将来の見通しに関する記述は、既知または未知のさまざまなリスクおよび不確実性などその他の要因に左右されます。そして、こうしたことすべては、フォルヴィアが制御できる範囲を超える可能性があり、その結果、実績がこうした将来の見通しに関する記述で期待されたものと著しく異なる場合があります。投資家は注意を払う必要があります。こうしたリスクおよび不確実性、ならびにその他の要因についての詳細は、フランス金融市場庁（AMF）に提出した公的書類、プレスリリース、プレゼンテーション、特に2023年2月28日にフォルシアがAMFに提出した、フォルシアの2022年ユニバーサル登録文書第2節「リスク要因とリスクマネジメント」（No. D. 23-064、[www.forvia.com](http://www.forvia.com)で入手可能）をご参照ください。フォルヴィアは、新しい情報、将来の出来事その他の結果にかかわらず、こうした将来の見通しに関する記述を法的な要求事項として公に更新し、修正する責任を負いません。ここに含まれる過去の業績に関連するいかなる情報も、将来の業績を保証するものではありません。本文書の内容は、投資の推奨としても、法律・税務・投資・会計上の助言としても解釈されるべきものではありません。本文書に含まれるヘラー関連の過去の数値は、買収過程で本社からフォルヴィアに提供されたものです。フォルヴィアの監査役はこうした過去の数値の監査は行っておらず、またこうした数値はフォルヴィアの監査役による限定的な評価の対象ではありません。ヘラーは引き続き上場企業です。ヘラーについての詳細は、[www.hella.com](http://www.hella.com)をご参照ください。本文書は、いずれの国や地域においてもフォルヴィアの有価証券の売却または購入申込みの勧誘として見なされるものではなく、またそのように解釈されるべきものでもありません。

## 本文中で使用されている用語の定義

### 売上高の変動

フォルシアでは、前年比の売上高の変化は、次の3つの要素で構成されます。

- 前年度の売上高にその期間の平均為替レートを適用して算出された「為替差損益」
- 「連結範囲の変更による影響」（買収・売却）
- 「為替変動の影響を除いた成長」

フォルシアは、年間ベースの売上高が2億5,000万ユーロを上回る企業の買収および売却をすべて「連結範囲の変更による影響」として開示しています。

この基準値を下回る買収については「ボルトオン買収」と見なされ、「為替変動の影響を除いた成長」に含まれます。

2021年には「ボルトオン買収」による影響はありませんでした。その結果、「為替変動の影響を除いた成長」は、一定の連結範囲と為替レートにおける売上高の変動（オーガニック変動とも表示される）に相当します。

### 営業利益

営業利益は、フォルシアグループの主要業績評価指標です。これは、以下を反映する前の、完全連結会社の純利益に相当します。

- 企業結合で取得した無形資産の償却費
- 重要で特別かつ経常外の項目に対応する、その他の経常外営業利益および費用。これには、組織再編費用や早期退職費用のほか、事業の中止、工業用地の閉鎖または売却、営業外建物の処分等の例外的な事象の影響、有形固定資産または無形資産について計上された減損損失、およびその他の重要かつ特別な損失が含まれます。
- ローン、現金投資、および市場性のある有価証券からの収入、および金融費用
- その他の金融収益および費用。これには、年金給付債務の割引による影響や関連制度資産からのリターン、金利・為替ヘッジの無効部分、IFRS第9号に基づいて明示できない関係性のなかで定められた基準をヘッジ関係が満たさない金利や為替商品の価値変動、および子会社株式の売却による損益が含まれます。
- 税金

### 調整後 EBITDA

調整後 EBITDA は、上記で定義している営業利益と、資産の減価償却費および償却費を合算したものです。フォルシアグループでは、ESMA（欧州証券市場監督局）の規制を順守し、2022年1月1日からそれまでの「EBITDA」に替わり「調整後 EBITDA」を用いています。従って、2021年度までの「EBITDA」数値は、2022年度以降の「調整後 EBITDA」数値に相当します。

### ネットキャッシュフロー

ネットキャッシュフローは次のように定義されます。営業活動および投資活動によるキャッシュフローから、資本持分および事業の買収・処分（現金および現金同等物を控除）、金融資産の処分によるその他の変動と収入を差し引いたもの。IFRS第16号の債務の返済は含まれません。

### 純金融債務

純金融債務は次のように定義されます。総金融債務から現金および現金同等物、非流動資産および流動資産に分類されるデリバティブを差し引いたもの。これにはリース負債（IFRS第16号の債務）が含まれます。